



～ 震災後の男女共同参画の取組 ～

名取市の男女共同参画社会の基本理念 “女と男、互いに認め、ともに輝きともに創る”

女性も男性も、お互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いながら、性別にとらわれることなくあらゆる分野でその個性と能力を十分に発揮できる社会、それが「男女共同参画社会」です。

今回は「震災後の男女共同参画の取組」をテーマに企業・市民団体・名取市の取組の一例を紹介します。

- ① 早期事業復旧の実現と男女共同参画の取組 (株式会社 オイルプラントナトリ)
- ② 家族間の男女共同参画を推進している市民団体 (産直ネットワークなとり)
- ③ 名取市の子育て支援の現状と取組の一例

① 早期事業復旧の実現と男女共同参画の取組 株式会社 オイルプラントナトリ



【被災した再生処理工場】

＜震災の概要＞

3・11の東日本大震災により海岸から1.5キロに位置するオイルプラントナトリの工場は津波で甚大な被害を受け、操業停止状態になりました。そんな状況下、新しい取組としてBCP(事業継続計画)を作成していたことで震災の8日後には一部事業が再開可能となり、社員の雇用を守ることが出来ました。

＜震災で見せてくれたウーマンパワー＞

震災後、工場から7キロ離れた増田にある本社・研修所に緊急対策本部と事務所機能を設け、事業再開の足掛かりを作りました。社員はガソリン不足や電車の不通などでいつもの通勤手段が使えない状態が続きましたが、そんな時でも女性の半数は自転車を通い、遠くは亙理から2時間近くかけて来た社員もおりました。弊社の事務系は女性が大きな役割を担い経営上大いに助かりました。男性は復旧の為に力仕事に専念し、男性は男でしかない業務、女性は女性ならではの業務に専念することが相まって復旧・復興のパワーをそれぞれに発揮することができました。

＜働きやすい職場環境を目指して＞

現在も仮設住宅から2名が通っておりますが、さらに被災者を新たに数名雇用しています。被災後も子育てしている社員の支援として、時短勤務を継続するとともに、平成24年7月には女性退職者を対象にした再雇用制度を導入しました。これは有能な人材確保や即戦力の雇用を目的に業務の専門性を生かし、活躍してほしいと考えたためです。

平成25年4月から「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」も改定されますが、今後も意欲と能力に応じて働き続けられる環境を整え、労働者が性別に差別されることなく、その能力を発揮できる体制を構築し、安心して働ける職場環境を整備していきたいと考えます。さらに、社員のスキルが向上すれば会社の利益も上がるので、事業が継続できる仕組みをみんなで構築していくことが第一であると考えます。



【震災後の緊急対策本部での社員の様子】

② 家族間の男女共同参画を推進している市民団体 産直ネットワークなとり

『 雨にも、風にも、そして震災にも負けない 』

名取市内の産直グループの集合体が「産直ネットワークなとり」です。現在、約70名の会員が活動をしています。結成当初は、女性だけの会員でしたが、今では男性会員が7名ほど入会し、男女一緒に活動をしています。



☆毎週土曜日にイオン名取店で開催している朝市☆

主な活動は、農産物、加工品の販売ですが、そればかりではなく、農産物の安全性について勉強会を開催したり、農薬の使用についての講習会に参加したり、安心して安全な農産物の生産販売に向けた品質向上の勉強に日頃より努めています。また、震災後は放射能による風評被害があり、以前よりも品質の安全性を理解してもらえるように講演会なども開催しています。

発足当初から農業経営にも女性の意見が反映されるようにと、「家族経営協定」に積極的に取り組んできました。そのために研修会を何度も開き、先進地である岩手県から講師を招き会員が勉強を重ねました。その甲斐あって、15軒の会員の家で協定を締結することができました。しかし、最初は男性があまり乗り気ではなく、「もともと母ちゃんたちが強いのに、いまさら。」と言う意見が多かったのです。



☆昨年11月開催のゆりが丘公民館まつりでの販売風景☆

しかし、家族経営協定を締結後、ますます生き生きと活動する姿を見て、家族の生活の中での役割、健康管理、給与、経営などについてはっきりと文書化することで、

家族のひとりひとりが責任をもち労働に励み、それぞれが快適に生活できることを男性も次第に実感するようになっていきました。

今回の大震災で20名ほどの会員の農地に津波の被害がありましたが、自分の作った野菜を家族に食べさせたい、産直の野菜を待っていてくれるお客様に早く届けたい気持ちで、会員は市内の畑を借りてすぐに生産を再開しました。



☆埼玉県越谷のレイクタウンでの復興産直市☆

震災から1年が過ぎた3月には埼玉県越谷のレイクタウンで「復興産直市」をおこないました。名取の復興の状況と農産物の放射能に対する安全性を、自分たちから伝えるためでした。そこでは、皆さんから温かい励ましの言葉をたくさんいただきました。そして、自分たちの活動を通して元気をたくさん届けることができました。

これまでさまざまな活動をして気付いたことは、仲間が集まればできることがどんどん広がり、たくさんの人と繋がっていき、女性も男性も一緒に心豊かな生活ができるということです。そして、これからも情報を発信し続けることで、もっともっと人と繋がっていければよいと思っています。

名取市内だけでなく、さまざまな所でオレンジ色のエプロンとジャンパーを見かけたらそれは私たちです。雨にも負けず、風にも、そして震災にも負けなかった「産直ネットワークなとり」のメンバーです。

家族経営協定とは・・・？

家族で取り組む農業経営について、経営の方針や役割、就業条件、環境について話し合いながら取り決めることで、家族一人ひとりがお互いに個性と能力を認め合い対等な仲間となり共同経営的な経営を目指すものです。

③ 名取市の子育て支援の現状と取組の一例

震災により家族・家庭・地域など人の繋がり、“絆”の大切さを改めて感じた人も多かったのではないのでしょうか。

子育ては、父母の関わり、さらには祖父母の関わりなど、みんなで子育てに関わることが子どもには良いとも言われています。

保健センターで開催された「パパ・ママ・赤ちゃんのもぐもぐセミナー」、那智が丘児童センターで開催された「びよびよ広場の避難訓練」の様子にあわせて、子育ての現状を紹介します。

☆パパ・ママ・赤ちゃんのもぐもぐセミナー☆



☆H24. 11. 18 名取市保健センターにて☆

「赤ちゃんを抱っこして、お散歩するだけで、赤ちゃんにとっては大冒険。山頂から見た景色のように普段見られない景色が広がっています。無理に遊んであげるのではなく、無理なく自分も楽しめる活動を共有しましょう。」というパパへのアドバイスに、皆さん肩の荷がおりたようにほっとした表情でうなずいていました。赤ちゃんだけでなくパパの笑顔も広がっていました。

☆イクメン??

最近、率先して育児に携わる父親を「イクメン」と呼ぶことが定着してきました。この言葉で男性の育児参加がクローズアップされたことは事実であるが、はたして???

↓逆に言えば

「イクメン」という言葉がクローズアップされていることは、世間一般的にまだまだ「育児は母親が行うもの。父親はそのサポート」という考えになっている表れではないのでしょうか？育児を行う母親を「イクメン」という言葉のように、特別な呼び名をつけることはありません。それは、母親が育児を行うことが当たり前という意識があるから。育児を行う「父親」が特別ではなく母親同様に自然に育児を行う社会を目指したいものです。

☆びよびよ広場 ~総合避難訓練~☆



☆H24. 9. 11 那智が丘那智が丘児童センターにて☆

平日の開催にも関わらず、パパやおじいちゃんの参加する姿もみられました！以前は、男性の姿は父親講座など男性参加限定の取り組みでしか見られなかったのですが、最近では少しずつですが、子育てサロンや子育てイベントに女性に混ざって男性の参加が見られるようになってきました。この日は震災から1年半。各ご家庭での防災を考えるという意味合いもあり、避難したり、消火器の使用方法を学んだり、親子で熱心に取り組んでいました。

☆キーワードは「思いやり」

男性は出産が変わることは出来ないが、女性の体を気遣うことは出来るはず。特に産後は体もつらい。特にお風呂掃除やオムツ交換など、かがんだ姿勢で行う作業は大変です。「お風呂入れ」などのように子どもに直接的に行うことだけが子育てではなく、母親が安心して母乳を与え、子どもと関わる時間を作るために、家事を行うことも子育ての一つ。最近では、「イクジイ」と呼ばれるおじいちゃんの子育てスタイルもあることを知っていますか？団塊世代で、子育てにあまり関わることが出来なかった方々が退職後、孫育てに積極的に関わっていくケースが増えているようです。

母親の情緒が安定し、家族仲が良好であれば子どもにとって最高の生活環境の中で成長することが出来ます。生活環境やスタイルはそれぞれ。家庭での役割分担はこうあるべきではなく、お互いを思いやり、今の生活スタイルの中でお互いが力を出し合える形を各家庭で探してみましよう。



復興における男女共同参画に係るワークショップを開催しました

平成24年11月27日、名取市役所において、復興庁主催による、「被災地における女性の現状とニーズを把握する」ことを目的としたワークショップを開催しました。

このワークショップは宮城県をはじめ福島県、岩手県の3県で開催されました。県内の市町村としては名取市のみで開催となりました。今回のご意見は、今後復興施策の検討に資することになります。

当日は市民活動団体、町内会、婦人活動団体、男女共同参画推進委員や学識経験者など様々な分野から女性22名の参加がありました。女性の視点から「いま困っていること」として生活・働く場・働き方などについて意見交換をしました。



ご意見の一部を紹介します。

- 三世同居をすることとなった。家族で役割分担ができ、協力しながら生活している。
- 家族・友人・知人など大切な人を亡くしてしまった。何も残っていない。不安で仕方ない。
- 地域で集まる場所もない。みんなが集まり話し合える場所がほしい。
- 生活が以前よりますます忙しくなった。何かに押されるように毎日が過ぎていく。誰かにストップをかけてほしい気持ち。このままでいいのだろうか。
- 仮設住宅で悩みを聴いている。まだまだ心を閉ざし、悩んでいる人が多いと感じる。誰かに悩みを打ち明けられず苦しんでいる人もいる。今の自分の活動は仮設住宅が閉鎖されるまで続けていきたい。
- 津波にあった方とそうでない方では心の温度差は大きく、それぞれに合う心の支援が重要ではないか。
- 震災後、会社に復帰し、頑張ることで応えたいと思っていたが頑張りすぎてダウンしてしまった。
- 農地が塩害で耕作できず、今後の農業はどうなっていくのか。家の修理もまだ終わらず、生活も不安。

‘私たちの現状をわかってほしい’ ‘早くの復興を望んでいる’
など参加者からは切実なご意見をいただきました。

お知らせ

東日本大震災 心の相談 ホットライン・みやぎ

昨年から、内閣府主催で通話料無料による電話相談を行っています。
被災した方はもちろん、被災者を支援している方からのご相談にも応じます。

秘密は厳守しますので、どうぞ安心してご相談ください。

専門の相談員が担当しています。(匿名でご相談いただけます)

通話料無料・宮城県内限定 0120-933-887

相談時間 月～金 8時30分～16時45分(祝日除く)

眠れない 孤独感 生活 DV(配偶者やパートナーからの暴力) 人間関係
仕事 将来の不安 家族 など



☆情報紙に関するご意見・ご要望、また取り上げてほしいテーマなどありましたら下記までご連絡ください。

次号の発行は平成25年夏頃の予定です。

《 編集と発行 》

名取市男女共同参画推進委員会

この情報紙に関する問い合わせ先・事務局

〒981-1292 男女共同・市民参画推進室

TEL 384-2111(内線331・337) FAX 384-9030